

ウイルス退散！！五壇護摩執行さる！

2020年2月28日

全国一斉の学校休校が始まり、マスクに続いて今度はトイレトペーパーが店頭から消えるなど、コロナウイルスの影響が私達の生活に暗い影を落としています。

そんな中、大山寺では真言密教の秘伝の修法である『五壇護摩』が厳かに執行されました。

これは本尊不動明王の前で、煩惱の象徴である護摩木を高く燃やし、願望を清めて大願が成就するよう祈願するもので、通常護摩壇は多くても三壇が一般的で、一度に五壇も行われるのは、全国的にも大山だけとされています。

更に今年は、ご祈禱される大願の中に「ウイルス退散！」が特別に加えられました。



関東三大不動の一つに数えられる大山寺です。

この本堂は明治維新の廃仏毀釈の大波の中、いち早く信者からの浄財で建てられたもので、以来140年に渡り人々の信仰を集めてきました。



法要の開始を待つ大山寺信者の善男善女の皆さんです。

今年はコロナウイルスの蔓延を防止するためにご高齢の方の参列自粛を呼び掛けた結果、例年より少ない約70名の参詣者となりました。



法螺貝に先導された僧侶が入場され、本堂内に設えた五つの護摩壇に向かいます。ウイルス退散を含む諸願成就の口上の後、一斉に始まった読経の中で、積み重ねられた護摩木に火が入れられ、いよいよ護摩祈祷が始まりました。



独特のリズムを刻む早打ちの大太鼓と、僧侶と信者が大音声で唱える読経が本堂内に反響する中、護摩壇の炎は更に大きくなって天井まで届きそうです。この炎に祈願内容の記されたご祈祷札を翳し霊力を高めます。



五壇護摩法要が無事に終了して、陽光穏やかな外へ出ました。皆様の願いごとがきっと不動明王様に聞き届けられたと思います。鎌倉時代に「敵国滅亡」と、このご本尊に祈祷されて退散した元寇の船団のように、コロナウイルスもこれで鎮静化してほしいと切に願いました。